

適性検査 B

(10:35~11:20)

注 意

- 1 検査開始のチャイムがなるまで開いてはいけません。
- 2 問題用紙の1ページから2ページに、問題が□1から□2まであります。
これとは別に解答用紙が2枚あります。
- 3 問題用紙と解答用紙に受検番号を書きなさい。
- 4 答えはすべて解答用紙に記入しなさい。

受検番号	第	番
------	---	---

- 1 次の文章は、野中健一^{の なかけんいち}さんが書いた「虫食^はむ人々の暮らし」の一部です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

「虫を食べる」と言えば、ゾツとする人、露骨^{ろこつ}にいやがる人も多い。頭では納得^{なごどく}しても、いざじつさいの場面となり、目の前にすると拒否^{きまひ}するというパターンがある。食べものに対する個人の好き嫌^{きらい}いはあって当然だ。形を拒否する者が多いのも理由として当然だ。ただそこで、なぜ形によって嗜好^{しこう}が違^{ちが}うのだろうかという疑問を持つことが、文化を考えていくきっかけになるのだ。それを、「私たちの文化では虫を食べない」「日本人としては食べるものではない」など、根拠^{こんきょ}がふたしかなまま「私たち」や「日本人」という一般化^{いっぱんか}をはかって自分が食べられない理由とする人がいる。個人の好き嫌いや価値観を当然のものだと考え、それを標準化^{ひょうじゆんか}することは、そうでない人たちを排除^{はいじょ}する姿勢にもつながりかねない。このような安易な一般化は危なっかしい。地域や文化を考える上で、陥^{おちい}らないよう気をつける点である。

昆虫^{こんちゆう}を食べるのは、「貧しいからだ」「他に食べものがないからだろう」「海から離^{はな}れて魚がないからだ」、このようなよく言われる理由づけは、いずれもみずからの食生活を正の基準として、昆虫食はそれよりも劣^{おと}つたものとしてとらえる、一面的な見方から来るものではないだろうか。また、虫を食べる人自身も、しばしばその理由を「貴重なタンパク源」という言葉で説明してしまう。これでは、仕方なく食べていると受け取られてしまう。

虫を「美味しい」と受け入れる感覚も、逆に「不味^{まず}い」「嫌い」と拒否する感覚も、個人の嗜好^{しこう}に基づくように見えて、実は社会的あるいは文化的文脈の中に組み込まれている。昆虫食も各地で行われてきた慣行として成り立っている。それは、地域の社会の中で一つの価値観として共有されている。すなわち、「当たり前」のものなのだ。「当たり前」の美味しさは、ある社会を理解する糸口にもなる。イモムシやカメムシを食べたことのない人から見れば、それらを食することにゾツとするかもしれない。スズメバチに挑^{むか}み、家で飼育するなどということも、危険の上ないと心配するかもしれない。「食べたことがある」あるいは「食べることを知っている」という虫から、身近にいても食することなど思いもよらないような虫まで、「食べる」か「食べない」かという単純な価値観と行^{こう}為の違^{ちが}いから、昆虫とその背後の社会を見るきっかけができる。

(注) 露骨^{ろこつ} 〓 あからさまなこと。

拒否^{きまひ} 〓 たのまれたことなどを断ること。

嗜好^{しこう} 〓 好み。

一般化^{いっぱんか} 〓 特別でないようにすること。

文脈^{ぶんまく} 〓 物事の背景。

慣行^{かんぎょう} 〓 以前からのならわしとして行われていること。

(問い)

あなたは、この文章を通して、筆者が主張したいことは何だと考えますか。また、筆者の主張に対して、あなたはどのような考えをもちましたか。次の条件にしたがって書きなさい。

(条件)

- ・この文章を通して、筆者が主張したいことを書くこと。
- ・筆者の主張に対する自分の考えについて、これまでの経験や学習内容などから具体例をあげて書くこと。
- ・300字以上400字以内にまとめて書くこと。

2 千夏さんのクラスでは、総合的な学習の時間で、「よりよい町づくり」というテーマで班ごとに自分たちの住んでいるA町の課題を見つけて解決する学習をしています。そして、その学習を通して考えたA町の課題とその解決策を町長さんに提案しようと考えています。

千夏さんの班では、まず、「A町のよいと思うところ」について話し合いをしました。そして、「A町のよいと思うところ」を次のようにまとめました。

(千夏さんの班での話し合いのまとめ)

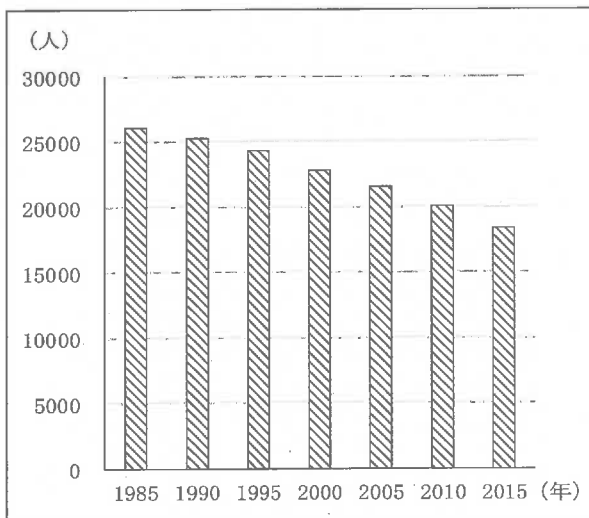
A町のよいと思うところ

- ・水や空気がきれいなところ
- ・新鮮な野菜がとれるところ
- ・四季の風景がきれいなところ
- ・釣りや登山を楽しめる場所が近いところ
- ・伝統文化が受けつがれているところ
- ・地域行事にみんなが積極的に参加するところ
- ・住民同士がお互いに声をかけ合ったり、助け合ったりしながら暮らしているところ

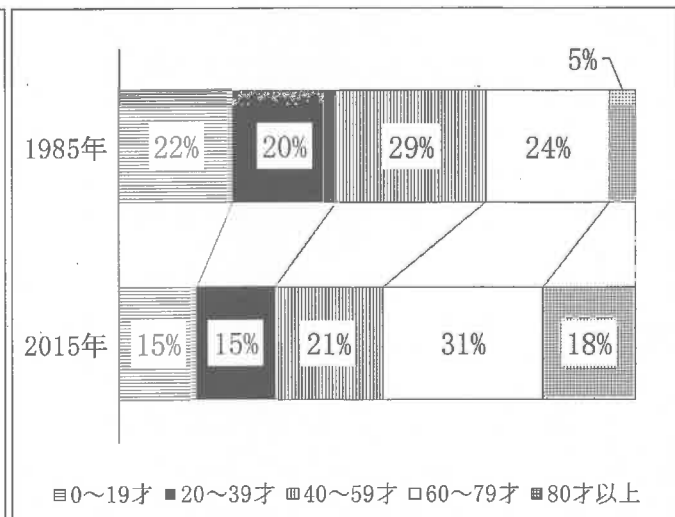
次に千夏さんたちは、A町の状況について調べるために、A町のホームページを見て、資料1・2のグラフを見つけました。資料1は【A町の人口の変化】のグラフです。また、資料2は【A町の年代別の人口の割合の変化】のグラフです。さらに、A町の状況をよりくわしく調べるために、A町に住むさまざまな年代の人に、「A町での生活で困っているところ」についての意見を聞きました。資料3は【A町に住むさまざまな年代の人に対する聞き取り調査の結果】です。

あなたが千夏さんの班の一人なら、A町にどのような課題があると考え、どのような解決策を提案しますか。資料1～3から2つ以上の資料を用いて、あなたの考えるA町の課題と、「A町のよいと思うところ」をふまえた解決策を、文章にまとめて書きなさい。

資料1 【A町の人口の変化】



資料2 【A町の年代別の人口の割合の変化】



資料3 【A町に住むさまざまな年代の人に対する聞き取り調査の結果】

A町での生活で困っているところ

- ・働くところが少ないところ
- ・スーパーマーケットなどの買い物のできるところが少ないところ
- ・交通の便が悪いところ
- ・病院や薬局が少ないところ
- ・遊ぶための施設があまりないところ
- ・学校までが遠いところ
- ・空き家や空き地が増えてきているところ

